秋田工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	現代の社会 I
科目基礎情報					
科目番号	0003		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 「現代社会」東京書籍 / 補助教材: 「最新現代社会資料集 新版」第一学習社				
担当教員	長井 栄二				
到達目標					
1. われわれが現在直面している主要な時事問題がわかる。 2. 市場経済の基本的なしくみがわかる。 3. 基本的人権を守るためのしくみがわかる。 4. 戦後の国際社会の歩みがわかる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	現代日本の主要な時事問題を、具体的に説明できる。	現代日本の主要な時事的テーマについて、概要を説明できる。	現代日本の主要な時事的テーマについて、概要を説明できない。		
評価項目2	市場経済における政府の役割を、具体的に説明できる。	市場経済の基本的なしくみを説明できる。	市場経済の基本的なしくみを説明できない。		
評価項目3	現代日本社会の現状を、具体的に説明できる。	基本的人権の発展を説明できる。	基本的人権の発展を説明できない。		
評価項目4	国際社会の現状を、具体的に説明できる。	戦後国際政治の大きな流れを説明できる。	戦後国際政治の大きな流れを説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	日本および世界における現代社会の諸問題について多様な観点から学ぶことにより、現代世界において自ら考え主体的に生きていくために必要な基礎能力を身に付ける。				
授業の進め方・方法	授業形式。授業中には板書を書き写すだけでなく、口頭説明のメモをとること。必要に応じて適宜、小テストないしレポート課題を実施する。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。				
注意点	合格点は50点である。前期・後期の成績は、それぞれの中・期末の試験結果を70%、小テストないしレポートを15%、授業態度を15%で評価する。学年総合成績 = (前期成績 + 後期成績) / 2。 授業を受ける前: 日常的にテレビや新聞などのメディアで、日々のニュースに触れておくこと。 授業を受けた後: 授業中に出てきた分からない漢字や語句、地名を、指示されなくとも自らすすんで、辞書や地図で調べて確認しておくこと。この実直な作業は、後に本当の実力として大いに身になるものである。				
授業計画					
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	授業のガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。	
		2週	現代社会とわたしたち①	われわれが現在直面している主要な時事問題がわかる。	
		3週	現代社会とわたしたち②	諸外国との対比で日本の現状の特徴がわかる。	
		4週	現代経済の成り立ち	資本主義経済体制の特徴を学ぶ。	
		5週	経済の捉え方	基本的な経済指標を学ぶ。	
		6週	企業	株式会社の特徴を学ぶ。	
		7週	金融	金融市場のしくみを学ぶ。	
	8週	到達度試験 (前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。		
	2ndQ	9週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答	
		10週	政府	市場経済における政府の役割を学ぶ。	
		11週	税・財政	日本の税・財政の現状について学ぶ。	
		12週	現代政治の成り立ち	民主政治の基本原理を学ぶ。	
		13週	政治体制	日本の国制の特徴を学ぶ。	
		14週	基本的人権	基本的人権の発展について学ぶ。	
		15週	到達度試験 (前期末)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
16週		試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答、および授業アンケート		
後期	3rdQ	1週	法	日本における法の現状について学ぶ。	
		2週	地方自治①	地方自治の意義を学ぶ。	
		3週	地方自治②	日本の地方自治の現状について学ぶ。	
		4週	現代社会の諸問題①	日本における主な社会的課題がわかる。	
		5週	現代社会の諸問題②	諸外国との対比で日本社会の特徴がわかる。	
		6週	主権者としての市民	主権者として必要とされる素養について学ぶ。	
		7週	到達度試験 (後期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
	8週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答		
	4thQ	9週	現代国際社会の成り立ち	国際社会を捉えるために必要な基礎知識を学ぶ。	
		10週	安全保障安全	安全保障の基本的な考え方を学ぶ。	

	11週	国際連合	グローバルな国際体制について学ぶ。
	12週	戦後国際政治の歩み	冷戦構造の出現と崩壊について学ぶ。
	13週	現代国際社会の諸問題①	冷戦後の国際情勢を学ぶ。
	14週	現代国際社会の諸問題②	国際社会が現在直面している地球的課題がわかる。
	15週	到達度試験（後期末）	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。
	16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答、および授業アンケート

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	1	
				自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	1	
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	1	

評価割合

	到達度試験	小テストないしレポート	授業態度				合計
総合評価割合	70	15	15	0	0	0	100
知識の基本的な理解	50	15	0	0	0	0	65
思考・表現	20	0	0	0	0	0	20
態度（人間力）	0	0	15	0	0	0	15
	0	0	0	0	0	0	0